

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：社会学Ⅰ ILAS Seminar :Sociology I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 柴田 悠		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月2	教室	共北3A			使用言語	日本語
キーワード	社会学 / 幸せ / 生き方 / 親密性 (友人関係・恋愛・結婚・家族)						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
[授業の概要・目的]							
「幸せ」「生き方」「親密性」といった担当教員の研究テーマを参考にしながら、受講者各人が、現代のさまざまな社会現象や、自分自身の人生・生活上の問題について、自らの関心に即して、社会学などの先行研究(関心に最も近い査読論文1本以上)を参照・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。 さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。またその際、担当教員は、社会学の思考法を活かした発言をすることで、社会学の思考法を参与的かつ実践的に伝授する。							
[到達目標]							
社会学の思考法を用いて、現代のさまざまな社会現象や自分自身の人生・生活の背景にある「しくみ」(社会構造とコミュニケーションの相互影響関係)を、初歩的な水準で分析・説明・議論できるようになる。							
[授業計画と内容]							
基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、内容を変更する可能性がある。 第1回 ガイダンス(発表の仕方、先行研究の検索方法)、受講者各人の発表日程の決定。 第2回～第4回 先行研究の選び方の相談会や、討論の練習を行う。 第5回～第12回 毎回1～2名が発表する。発表では、「社会現象や人生・生活についての問い」、「その問いに最も近い先行研究(査読論文1本以上)の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題」を、レジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。 第13回 予備日 第14回 まとめの討論 第15回 フィードバック(詳細は授業中に説明)							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・観点]							
平常点(発表内容50点+討論参加50点=100点満点)によって評価する。							
ILASセミナー：社会学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓							

ILASセミナー：社会学Ⅰ(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://sites.google.com/site/harukashibata/profile>(教員紹介のページ)

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は、今後の自分の発表のための準備を入念に行うこと。

復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、口頭かメールで教員に質問すること。

毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分(平均)、復習120分を目安とする。

[その他(オフィスアワー等)]

総合人間学部の「基礎演習：社会学Ⅰ」(総人定員5名程度)と共通の授業。

履修人数を発表スケジュールに適した人数に制限する。

また、「感染による履修上の配慮」が必要となった場合には、急遽、Zoomを用いたハイブリッド形式に切り替え、対面参加者もZoom上で発言をしてもらう可能性があるため、Zoomにアクセスできる端末(ノートPC等)とイヤホン(できればイヤホンマイク)を毎回持参すること。

[主要授業科目(学部・学科名)]